

日本の医療保険制度は最低最悪

多額の医療保険税を払い込む人間と、毎日通院する者が同一ということは殆どありません。

毎日、通院している者は、生活保護受給者か暇な高齢者。

高額の医療保険税を払っている者ほど多忙で、病院へ行く暇がない。

日本は医療保険制度が充実していると感じているのは暇つぶしに通院する側だけであり、払い込むだけで病院へ行かない者にとっては理不尽極まりない制度。

『刷り込み教育』に騙されやすい皆様は目を醒ましましょう。

ネグレクト、多頭飼育崩壊者は生活保護受給者が多い。

- 計画性がない。産ませて増えたらエサ代にも困るということを思いつかない。
- 自立できない（福祉の世話になっている）。
- ゴミ屋敷に住んでいる。
- やもめ暮らしで、寂しさを紛らわすために動物を飼っている。動物への責任意識がない。
- 異性と会話するきっかけが欲しくて動物を飼っている。
- 異性の身体に触るきっかけが欲しくて、多頭飼育崩壊状態を作る。

多頭飼育崩壊になると善意のボランティアがすっ飛んで行って去勢避妊を促したりエサを持って行く。やもめ男は会話するきっかけができてシメシメと考える。ボランティアが手術費やエサ代を肩代わりしてあげると、自分への恋愛感情だと思い込んで迷惑をかける。お金をかけずに異性と関わるきっかけづくりを考えることに余念がない。

生活保護受給者の手口

因みに福島市の一人暮らしの場合（都会はもっと高額）、

家賃上限 36,000円

生活費 69,160円

暖房費（11月～4月）7,460円

期末一時扶助 12,880円

医療費～～～暇つぶしにどれだけ通院しても無料

働かずにこれだけ多くもらって恥ずかしいと思わないのでしょうか？

生活保護制度は、労働者からこれでもかこれでもかと税金を絞り取って生活保護受給者だけを楽させる

『労働者虐め制度』です。ナマポを特権階級だと認識しない限り、改革はありません。ナマポを糾弾しなくてははいけません。

生活保護受給者との会話

ナマポ 「遣ったら無くなるから、もっと必要だ」

星野 「遣ったら無くなるのは当然でしょ！働いてる人だって給料を遣ったら無くなるんだし！」

ナマポ 「死ねってということですか？！」

星野 「あなたのような人間は死んだほうが、世の為、人の為になりますよ！」

議員が自ら身を削って、生活保護制度を温存しようとしているならまだしも、労働者から税金をひっかき集めての生活保護制度。

特に高額所得者へは累進課税によって高額納税義務を課し、少しでも脱税しようものなら、鬼の首でも取ったかのように虐めて犯罪者に仕立てています。

青汁王子のような高額納税者へは感謝すべきであり、妬むのは筋違いです。

高額納税者がいなかったら、今頃、公務員報酬はもっと低かったでしょうし、生活保護費ももっと低かったでしょう。

お金持ちへの妬み僻み根性を発散させるための累進課税制度に感じますが、妬み僻みを隠すために、もっともらしい理屈をつけているのかも知れません。

「あいつだけがなぜモテる！あいつが貧乏になればモテなくなるかも、、」が本音かも知れません。

福島市議の中にも偽装福祉議員がいます。その議員の個人名を知りたい方は、ハガキでお問い合わせください。お電話はお控えください。